

北区民まちづくり会議 第2回地域コミュニティ賑わい部会 摘録

日 時： 平成29年1月12日（木）午後6時30分から午後8時

場 所： 北区役所大会議室

【開会】

○事務局

開会宣言

【区長あいさつ】

○松本区長

皆様、あけましておめでとうございます。

年始のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

本年も、京都市政並びに北区政の推進に御理解、御協力をよろしく願います。

さて、この「地域コミュニティ賑わい部会」であるが、平成28年10月27日に第1回の部会が開催され、自治会等加入の現状について、皆さまの貴重な声を頂いた。

地域コミュニティの希薄化に対する懸念が強まる中、皆さまが日々、精力的な活動を行っていただいていることが議論の端々から聞いて取れ、非常に心強い限りである。

その一方、価値観の多様化が広がる中、自治会活動の果たす役割について理解が得られにくいといった声も見受けられ、今後の課題として議論を深く掘り下げ、解決の糸口を見出していきたい。

自治会加入率問題については、来年度以降も継続してテーマとする予定であり、問題解決に向けては地域の代表者の皆さまを始めとし、地域において活動されている皆さまの声が必須であり、今後とも積極的な御意見を頂きたい。

本日は、どうか最後までよろしく願います。

【議事】

○事務局

それでは本日の会議を始める。

なお、本日は、第2回目の部会であり、時間も限られていることから、自己紹介については省略するので、資料の座席図や席札等で確認いただきたい。

それでは、まず、簡単に、これまでの経過について、事務局から説明する。

<参考資料（2-1）、（2-2）に基づき説明>

それでは、本日の会議を始める。会議の進行については、本部会の部会長である関谷先生に願います。

○部会長

それでは、手元の次第に従い、議事を進行する。

さきほど、事務局から説明があったように、前回の議論において、資料2-2に記載しているような項目に分類することができる。このうち、今回は、「自治会・町内会未加入者へのアプローチ方法」について、議論していただくが、この議題を選んだ理由については、議題(1)にもあるように、地域力アップキャンペーンの取組が関わっているので、これについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料(3)、参考資料に基づき説明>

○部会長

ありがとうございました。

簡単に言うと、3~4月に、転入者に対するキャンペーン月間がある、そのため、今回の議論は「自治会・町内会未加入者へのアプローチ方法」に絞りたい、ということだ。

なお、「自治会・町内会未加入者」というのは、先ほど、事務局からも説明のあったように、「今後、新しく北区に転入されてくる方」と、「現在、北区に居住しているが、加入していない方」の大きく2つに分かれる。先ほど、事務局から説明のあったキャンペーンについては、主に「転入者」を対象としている取組であるので、今後、「北区に居住しているが、加入していない方」に対して、どのように取り組んでいけばいいのかを考えていく必要がある。

そこで、今回の議論は、前半と後半で、対象者を分ける。前半は、「転入者」を対象として、キャンペーン月間での取組を踏まえ、地域として取り組むべきことは何か?を議論していただく。後半は、「現在、居住しているが加入していない方」に対して、どのように取り組んでいくべきか、これを議論していただく。

なお、取組については、キャンペーン月間における取組にもあるように、北区役所の協力が必要な部分もあるが、やはり、自治会・町内会の問題は、地域の方々が主体的に実施していただくべき問題である。また、先ほどの下京区役所でのアンケートでも「声掛け」をきっかけに加入したという意見もあり、前回の部会の議論においても、「ビラを作り、声掛けをすると案外、加入してくれた」という意見もあった。やはり、地域の方々が取り組む事が重要であり、最も効果的である。

よって、今回の議論は、地域として何を実施すべきか、という点を主体にする。地域が主体的に取り組むうえで、北区役所のバックアップが欲しい、キャンペーンの取組でもっとこんな事をしてほしい、といった意見もあるとは思いますが、基本的には、地域が実施主体となって、どのように取り組んでいくべきかを議論していただく。

なお、今回、テーマが2つになったことから、少し時間的にタイトになっている。そこで、議論を絞るため、マンション住民と学生については、来年度以降、議論する予定であることから、今回は議論の対象から外したい。また、1人の発言時間は約1分、長くても2分程度

でお願いします。各テーブルでファシリテートをするまちづくりアドバイザーの皆さんも、時間の管理をよろしくをお願いします。

それでは、ワークショップに移る。

【各テーブルのワークショップ内容】

<A テーブル>

■転入者に対して

○委員

規約を作っており、転入者があった場合、組長が必ず会長に報告し、声掛けをすることを義務付けている。その際、町籍簿の作成、提出を義務付けている。実際には3～4割程度しか作成していないが。防災、減災のため、特に高齢者や小さな子供がいる世帯に対し、全員の名前を書いてほしいとお願いしているが、苗字のみであるとか、電話番号は嫌だとか、そういった方がいる。転入者があるとき、年度初めに更新している。しかし、町籍簿を出すからといって、町内会に入るという訳でもない。入ってもらうよう組長から説明はしているし、場合によっては、会長が出向いて説得するが、入っていただけない方もいる。町籍簿は出すが、町内会には入らない、しかし、何かあった時は助けてほしい、という方がいる。町籍簿すら出さない人もいる。

○まちづくりアドバイザー

こういった町内会の動きは、自治会には報告されるのか？

○会長

報告はされない。日頃のお付き合いの中で、知ることはあるが。

○松本区長

町籍簿は市政協の管理か？

○委員

町内会で管理している。だいたいの感触だが、3～4割程度が町籍簿を持っていると思う。

○松本区長

規約があるのに、作っていない町内があるということか？

○委員

規約を作っている町内は、非常に少ないと思う。

○会長

以前、町内会長に作成をお願いしたが、断られた。自治連合会長ではあるが、町内会では

1 委員なので、そこまで強く言えない。

○松本区長

町内で転入者があれば、組長が出向いて、町籍簿の提出や町内会への加入をお願いしている、という事だと思うが、今、北区役所では、これまでの取組に加えて、連絡票を添付して配ろうと考えている。転入者に連絡票を記入していただき、北区役所でいったんお預かりしたのち、それを自治会長、町内会長につなごうと考えているが、このような取組についてはどのように考えるか？

○会長

大変、ありがたいと思う。その連絡は自治連合会に来るのか？市政協に来るのか？

○松本区長

それは、今後、相談したいと思う。

○会長

その連絡票をいただいたら、町内会長に渡すことになるが、町内会長がどこまでやってくれるかが問題。1 番の問題はここである。動いてくれない町内会長にも、できるだけ説得するし、それが基本である。自治連が動くと、それが事例となり、他の町内会長も動いてくなくなる。また、町内の居住者の方が面識もあり、接触する機会もあるので、できるだけ、町内会長にアピールしていきたい。

○まちづくりアドバイザー

組長が挨拶に行く、ということは徹底されているのか？

○委員

組長にお願いはしているが、基本は任せている。

○会長

役が順番に回っているだけであり、適任者としてお願いしているわけではないので、責任感がなく、それに加えて、会員増加というのは考えておられない。このような状況のなか、提示された取組をお願いしなければならないが、我々も、そこまで積極的にお願いしていないので、何か変わる可能性はある。

○会長

当学区は、昔の村議会の延長であるため、全員が加入している。たまに移住者がいるが、民宿経営希望者だったので良かった。田舎に来るとするのは難しいと思う。店も何もなく、街中とは違う。人口の現状維持が精いっぱい。

○松本会長

転入者が、町内会に入らないという事例は？

○会長

そういった事例はない。セカンドハウスとして所有している方もおり、仕事を辞められたら、こちらに移住すると言っている人もいる。

○まちづくりアドバイザー

入って当たり前、という雰囲気があるので、大丈夫ということか？

○会長

色んな面で、自治会中心に声掛けをしており、全てのことについて、自治会がトップになり進めている。

○まちづくりアドバイザー

街中の方に話を戻すと、一応、町内会長や組長が声をかける役割にはなっているが、強制ができず、任せるしかなく、じれったい。

○松本区長

町内会長や組長は、声をかける役割である、という認識はあるのか？

○会長

認識はある。今まで、こういった資料すら渡せていない。渡すだけでも、全然違うと思う。

○まちづくりアドバイザー

町内会長の意識を高める取組は何かあるか？

○会長

たまたま、うちの組だったので、教えに行ったという事例はある。ただ、何も持たずに話に行くのと、何かビラを持って行くのとでは、全然違うと思う。話はしやすいし、キッカケになる。ただし、ポストへの投函はあまりよくない。会って話す事が大事。

○委員

生活に必要なものを、町内会長にもらいに行ってもらってはどうか？区役所に行くのではなく。区役所でこういった冊子等を配ると、それで終わってしまう。冊子を町内会長の家に置いておけばいいのではないか？私が引っ越ししてきた時に、まず、組長のところに行った。そのように、親に教えられてきた。向こう三軒両隣と組長のところに挨拶に行くのは当たり前だと教えられてきた。区役所から、転入者に対して、そこに行っておきたいと言えればいい。

○会長

両親の教育が大変すばらしいと思う。

○委員

私は、それが当たり前だと思っている。わざわざ、役の方が行かれるのは大変ご苦労なことだと思う。

○松本区長

区役所が「町内会長のところに行ってください」と言うと、「町内会長は誰ですか？」と聞かれる。その時、町内会長の名前を言えるのならいいが、町内会長によっては、「勝手に名前を言うな」という方もいらっしゃるかもしれない。

○委員

転入者がありそうだ、という事がわかれば、組長が会長に報告することを義務付けている。もしかしたら、転入者が区役所へ行くより先に、声掛けをしているかもしれない。

○松本区長

こういった冊子等を、町内会長のところに行かないともらえない、という発想は非常に面白いと思う。しかし、転入者をどのように誘導するか、という課題がある。

○部会長

町内会長の実施すべき業務に入れておき、交代の時も申し送りしておく、というのは1つの手段だと思う。

○松本区長

町内会長に冊子を何部か渡しておいて、町内会長が冊子を持って、転入者に渡し、加入の呼び掛けも行う、ということだと思う。冊子を渡しておけば、町内会長は必ず行ってくれるだろうか？

○会長

やはり、転入者の入会の意思が必要だと思う。

○松本区長

冊子だけもらって、町内会には入らないというケースもあるかもしれない。

○委員

しかし、キッカケにはなる。

○松本区長

やはり、町内会長がどこまでやってくれるか、という話になる。

○会長

夜だけ在宅とか、名前だけの町内会長もいる。

○まちづくりアドバイザー

転入者は、入ってもらえる可能性の高い方なのに、今のような場合であったとしても、入ってもらえるチャンスは1回だけ。もう少し、多角的にアプローチできないか？

○会長

イベント参加時における啓発がよいと思う。

○まちづくりアドバイザー

その場合は、転入者というより、未加入者に対するアプローチになってくる。

○松本区長

ということは、やはり転入者の1回のチャンスというのは非常大事になってくる。しかし、この冊子が市民に行きわたらなければ、行政として非常に困る。町内会長が必ず行ってくれたらいいが。

○部会長

ゴミの出し方など、重要である。

○松本区長

市民サービスに差が出てしまう。非常にいい発想だと思うが。

○委員

サービスを分けることはできないのか。役所でしかできないサービスと、地域でしかできないサービスを分ける。自主防災などはそうである。

○会長

もし、準公務員という役があればできるかもしれない。例えば委託業務とか。

○松本区長

ゴミ袋無料券とかなら、町内会長で配布できるかもしれない。今は、区役所2階のエコまちステーションで配布している。

○会長

例えば、加入していただいた方に何かを渡すなど、できるかもしれない。転入者に取りに来てもらうより、配った方がいい。そこまでしてくれるのか、と思ってくれる。

○まちづくりアドバイザー

転入者が、町内会長に触れる機会を増やすことが大事。未加入者だから町内会長とは無関係、ということではなく、何か用事があり、声をかける必要がある、という事ができればよい。

○委員

加入記念品を渡してはどうか？

○松本区長

しかし、無料ゴミ袋を町内会長から配布するとしても、やはり、区役所から町内会長を案内する必要がある。

○会長

そこは問題ないのではないか。市政協の一覧表を役所に出しており、同じものを委員全員に配布している。

○松本区長

ただ、今現在も、市政協の仕事が多すぎる、と言われている。つい先日も、ポスターや回覧が多いと言われており、どうやって減らそうか議論をしたところである。しかし、何か物を渡すというのはいい発想だと思う。

○会長

最近、費用対効果ばかり言われる。

○委員

例えば、夏まつりの際、最初だけ無料500円券を渡し、とりあえず来てもらう。それが楽しければ、次回以降、お金を出してきてもらう。意味は同じだと思う。初期投資が必要である。

○まちづくりアドバイザー

転入してきた時に、1年間有効のお試し無料券を渡すなどの取組が考えられる。

○委員

そこに、来てもらわないといけない。呼び水が大切である。

○会長

それは、自治会の仕事だと思う。

○まちづくりアドバイザー

今までは、町内会長や組長が声をかけに行っており、そこに頼っていた。そこに、自治連合会として、夏まつりに来てもらうための特典を提供するし、区役所としても、市政協を通じて、行政情報を提供する。

○会長

多くのアプローチがあった方がいい。

○委員

中にはセコい人もいて、入らないけど、物はもらう、という人もいる。

■既に居住している未加入者に対して

○まちづくりアドバイザー

ここから、後半に入っていくが、そうまでしても入ってくれない人にはどうすればいいか？

○会長

100%を望まないほうがいい。落胆が大きくなる。

○松本区長

役をやるのがイヤ、という人が多い。どう払しょくしていくべきか？

○会長

断られる理由は、メリットがない、忙しいの2つ。しかし、加入していないのに、メリットなんてわかるわけがない。口実にすぎない。

○まちづくりアドバイザー

例えば、加入お試し期間みたいなものを設定するのはどうか？

○会長

それが、イベントへの誘いである。

○松本区長

自分の町内で、誰が入っていないのか、ということは把握しているのか？

○委員

把握している。

○松本区長

そういった方々に対し、加入を呼び掛けているのか？

○委員

折に触れ、時に触れ、あらゆる機会呼びかけている。

○松本区長

例えば、高齢者の居場所提供など、こんな取組をしているので、入ってください、とかそういった勧誘もしているのか？

○委員

行っている。実際に、従来、加入していなかった高齢者の方が、若い方に役を代わってもらって加入した事例もある。

○委員

私は、町内会に入っていない。伏見区のアパートに住んで9年くらいになる。加入していない理由は、声掛けや勧誘がなかったから。隣近所と接点がなく、何か災害が起こった時、生きていけないのではないかという不安があり、入りたいと思っている。市民しんぶんも来ない。町内会に入っていないと、回覧板が来ないので、イベント情報等も来ない。会長が誰かも知らない。アパートの大家が副会長のため、アパートとしては入っているかもしれない。

○松本区長

やはり継続的な声掛けが大切。

○会長

アパート住民はどうせ入ってくれない、という先入観があるのではないか。

○委員

役を持っている方が大変な労力である。断られると、役が嫌になる。労をかけずして、キッカケを作ればいい。全戸に加入呼びかけを投函するなど、キッカケを作れば少しは違うのではないか。役の負担感が非常に大きいので減らしてあげる必要がある。しつこさは熱心さの裏返し。自発的な加入を待つ取組をしないと、負担感ばかり増える。こまめに実施する方法を考える必要がある。

○まちづくりアドバイザー

その時、投函する内容は、楽しい雰囲気の方がいいと思うが、やはりイベント告知が1番いいのか？

○会長

大勢が参加するイベントが好ましい。

○松本区長

自治会・町内会の活動の内容が周知されていない。会費が何に使われているかも不明。こういったことを説明し、説得力を持たせる必要もあるのではないか。学区毎に配るチラシを作成し、投函してはどうか。

○委員

見てくれるかどうかはわからないが、何もしないよりはマシ。

○会長

継続的にやることが大事。

○松本区長

戸別訪問ではなく、投函程度なら、町内会長もやってくれるか？

○会長

どれほどやってくれるかは不明。自分の町内のエリアをわかっていない町内会長もいる。

○委員

最近はやめたが、昔は、町内会長が変わるたびに、自分の町のエリアを赤線で囲ってもらっていた。辞めた理由は、あまりにエリアをわかっていない人が多いから。

○まちづくりアドバイザー

声掛けが楽しくなるような取組はないか？加入してもらった側の特典の話はあったが、加入させる側の特典はないか？

○会長

1軒加入してくれたら表彰や記念品などのインセンティブを与えるような、メリットが必要。例えば、役の免除、町内会費の減免など。

○松本区長

住んでおられる方が、穏やかに見守られているという心地よさが自治会加入につながる1

つではないか。例えば朝の挨拶など。この程度は現在も行われているのか？

○会長

やっていると思う。しかし、転入者は顔見知りがないので、やりにくい。既に住んでおられる方から挨拶すべきだと思う。

○まちづくりアドバイザー

挨拶するきっかけは？

○委員

顔見知りだから。

○まちづくりアドバイザー

未加入者は、顔見知りですらない？

○委員

住んでいれば、未加入者でも顔はわかる。

○会長

入らない人は変わった人が多く、そういう人は挨拶もしない。第一印象として、そう感じてしまう。多くの人は会釈から始まり、回数を重ねるごとに、挨拶できるまでに発展していく。

○松本区長

いつも挨拶しているし町内に顔を出してみようか、と求めていただけないだろうか？

○会長

非常に大事である。挨拶が1番。まずはそこから。

○まちづくりアドバイザー

その雰囲気はどうやって作ればいいのか？おそらく、町内会ではなく、学区としての取組になると思うが。

○松本区長

町内会長が集まる会合で、声掛け運動を始めましょう、などはできないか？

○委員

世帯数、未加入世帯数の一覧表も渡しているので、こういう状況を踏まえ、町内会長に対

し、こういう取組をはじめましょう、ということ是可以する。

<Bテーブル>

■転入者に対してのアプローチ

○会長

転入者に対しては、町内会から必ず声かけを行っているが、断られる場合もある。

○会長

転入者はその町内会の現状等を分からない状態で引っ越されてくる。そのため、まずは町内の年齢層や、行事内容を説明した上で加入の呼び掛けを行うことが大切である。

しかし、町内会長が高齢であるため声かけをするのが難しい場合もある。

毎年の町内会から自治連合会の分担金によって加入世帯の増減は把握できる。

○会長

人口が20～30年の長期スパンで見ると増加傾向にあるが、加入率は低い。

土砂災害の指定地域でもあるため、お互い助け合いが必要であること、地域の魅力のPRの発信、二点をポイントに加入促進を行っている。

具体的に、昨年度加入キャンペーンを行っており、加入率が持ち直した。

○まちづくりアドバイザー

新しく引っ越してこられた方は、その地域の実情を知らないため、行事等について丁寧に説明するのは大切である。さらに、町内会サイドも加入促進の取組に対して意識向上を図っていく必要がある。

○委員

説明にあった下京区のアンケート結果において、役の負担感が嫌だと言う声があった。一方で資料4の内容を見ていると、多くの活動が記載されており、負担感を感じてしまうのではないかと。自治会・町内会に入ることのメリットを強調すべきと考える。

また、以前居住していた地域では町内会加入を申し込むといった明確な行為はなく自然に会費を集めにきていた。加入・未加入というのを明確に区分せず緩やかな心のつながりを大事にしたほうがよいのではないかと。

○会長

そもそも、町内会は加入が基本であるため、転入してこられた方にきっちりと説明し、働き掛けを行うことが大前提である。

○委員

一昨年、町内会長をやったが前の会長は高齢で役の負担が原因で交代となった。

地域の魅力の情報発信を積極的に行うことが大切である。各学区で魅力発信委員会のようなものを立ち上げて、地域の歴史的背景や、行事等を紹介する地域に愛着を持てるような内容が盛り込まれているとよい。

やはり声かけは大事である。しかしながら町内会の役員が行うのは負担がかかるため、自治会等加入活動を専門的に行うボランティア組織のようなものがあるのもよいのではないかと。

また、事業者の町内会加入を促進すべきではないか。会費だけでなく実質的に活動に関われるようにしたら、若い力も活かせると思う。

○委員

隣近所の声かけは大事であると思う。町内会長から声が降りてくるのとは違い、隣近所の声かけはやはり心に響くものがあると思う。

○事務局

キャンペーンに実施する学区紹介チラシは、北区60周年に作成した記念誌の学区紹介の内容を基に作成を考えているが、学区が持っている魅力を盛り込んでいきたいと考えている。

○まちづくりアドバイザー

学区を紹介するにあたって、歴史、行事を紹介するのはもとより、町内会加入は人付き合いであるため、地域における交流内容が分かるものとするのがよいのではないかと。

○会長

一度役員を引き受けると、ずっと続けなければならなくなり、その結果、町内会を辞めてしまうといった話もある。

○会長

学区の魅力を発信する冊子を全戸に配布したが、それが未加入者にとって響く内容なのかは正直疑問を感じている。なぜなら、我々役員の立場だと、自治活動は当たり前で大事であると共通認識を持っているが、未加入者にとってはそうではない。そこを意識して働き掛けを行っていくことが大切である。学区単位で地域性があるためそれぞれの特性に応じた活動が必要である。

○会長

行政からの配布物が多いため、それが役員の負担にもなっている。

■既に居住している未加入者について

○委員

未加入者は大きく分け、声がかかっていないこと、何らかの理由により脱退したことの2

パターンがあると思う。

○事務局

北区は犯罪も、火災も少ない安心安全なまちである。それは、警察、消防の働きかけだけでなく、何より地域の活動があってこそのものである。そのコストは地域が負担しているということを未加入者に理解していただきたい。

○会長

ごみ出しにしても、収集場所は地域のルールに則り町内会として適切に管理されているわけであり、加入していない人がそこに出すのはやはりそぐわない。

また、マンションについても管理組合にお願いして、マンション単位で町内会に加入するよう呼び掛けも行ってきている。

○事務局

商店街の店主に加入の働きかけは行っているのか。

○会長

行っているが、入れ替わりが頻繁にある。

○委員

不動産事業者からも、テナントのオーナーに加入の声かけを行っている。若い方には町内会に加入して積極的に地域活動に関わろうとしている。

○委員

一般的に不動産事業者は、仲介をする際、町内会の加入の呼掛けを行うのか。

○委員

あまり行っていない。リーフレット等があれば配布させていただくのだが。基本的には区役所が転入者に対してチラシを配布しているはずである。

○会長

学生マンションで町内会に加入しているところはあるのか。

○会長

学生マンションは少ないと思う。一方、学生マンション以外ではマンション単位で町内会に加入しているところもある。さらに、先日、有料老人ホーム全体で30軒程加入していただいた。

○委員

町内において、加入の有無については網羅的に把握されているのか。

○会長

ほぼ把握できている。

○会長

把握は出来ているが、声かけを徹底できていないという実態もある。

○委員

北区の加入率はいかがか。

○事務局

市の平均よりは高い72%で、これを80%に引き上げようというのが目標である。

○委員

数値は学生も含んだものか。

○事務局

学生も含んだ推計値とされている。

○委員

先ほども言ったが、配布物が多くかなり負担である。業者配送等に変えられないのか。

○会長

広報誌の配送について、京都府は業者配送である一方、京都市は市政協力委員による配布となっている。市の場合、配布数に応じて市から委託料が支払われており、それが町内会の貴重な収入源となっている。しかし、町内会未加入者にはしんぶんが配布されていないという課題もある。

○事務局

市としては、町内会未加入者にも配っていただきたいという方針であり、もちろんその配送に係る委託料もお支払させていただく。

○委員

私が町内会長の時、任期を終えて次の方に交代しようとした際、その方は一人暮らしの高齢者で、なおかつ病気がちで通院のため家を空けていることも多いとのことであった。さらに入院費用もかさみ年金暮らしで、町内会費すら払うのが厳しい状況とのことであった。ど

うしようかと町内の皆で話し合った結果、町内会長は市政協力委員も兼ねておりしんぶん配送の委託料も入ってくるから、その方の町内会費は免除にし、配布物も町内全体の輪番制で行おうということになった。その方は、無事町内会に留まっていただけのこととなり、さらに一連の経過がきっかけで町内会の結束が強まり、交流が深まるといった副産物も生まれた。

本当に大変な方も増えている昨今、優しい雰囲気付き合いを大切にしたいと感じた。

<C テーブル>

■転入者に対して

○会長

引越してきたら、トラックなどで転入してきたことが確認とれる。そして、引越してきた人に対し、近所の人声掛けをして、それが町内会長に伝わり、必然的に加入する流れができています。私の住んでいる町内では学生マンションを除き、ほぼ 100 パーセント加入している。

北区の加入率は高いように思われる。地域のルールやしきたりを知るため（他府県からの転入者はわからないが）、だいたいの方は町内会長にあいさつに行きたいと連絡があり、町内会長へ橋渡しをして、そこで地域の説明等をしている中で、加入してもらおうという状況である。

○会長

引越してきたら、町内会長にあいさつに行く人が多く、そこでその人の地域の組長を伝え、町内会に加入してもらっている。自分の学区では組長が細かいことなどを教える仕組みになっている。ほぼ 100 パーセント加入している。ただ、一部の人はそのような仕組みを知らずに、しばらくお互い誰かわからない状況が続くこともあり、様子を見つつ、行事があるとき等のタイミングで声かけを行っている。そして、行事などに参加し、地域を知ってもらってから次年度に会費をもらっていきやり方を行っている場合もある。

○会長

転入してくる人はわからないことも多く、町内会に加入するメリットをお伝えして入ってもらうこともあるし、必ず入ってもらうような仕組みがあると思う。そして、それらの情報を伝える人は近所の人であったり、住民に一番身近な組長が中心となって行っている。

○会長

加入の呼び掛けの状況は前者とほぼ同じであるが、自分の学区は組長・町会長という仕組みではなく、市政協力委員がその役割を成している。

○会長

本部の役員が、転入者への声かけを行い、組長と町会長を訪問してほしいとお願いしてい

る。役員自身も地域の簡単な説明をしている。子どもがいる家庭には地域の運動会はすべて募金で企画・運営しているの、町内会に入っていないなくても参加可能ではあるが、自分の地域のテントに行かなくてはならず、そこで配布されるお弁当やお菓子は町内会費で賄っているという説明をしており、それを聞いて、やはり町内会には入っておこうかという家庭もある。

また、学区内に転入してくる世代は、30代の中頃～後半で共働きも多く、町内会の手伝いができない人が多い。本人たちも、入ったからには責任を果たしたいが、なかなかできなく、心苦しい思いをしているとのことである。

先日も町内会に加入していない世帯に対して、チラシをポストに投函する取組を行った。直接、声をかけることができる人にはかけている。

○まちづくりアドバイザー

どの人が転入してきたかという情報は自治会長にもあがってきているのか。

○会長

日頃から地域に出回っているの、新しい家が建つなど変化があればだいたい把握ができる。

○会長

今年の3月・4月に区役所で自治会加入のチラシを配るということであるが、遅いくらい(やるに越したことはないが)。区役所に転入してくる人にもっと積極的に町内会への加入のチラシを配っておけば、地域に戻ってから、加入の手続きがスムーズに行くのではないかと。

○まちづくりアドバイザー

今回の区役所の取組に対して、期待できると思うか。

○会長

4月から加入率は上がっていくのではないかと期待している。

チラシに関しては、例えば子どもがいる世帯など、加入したことによるメリットを明記していれば、町内会に加入したいという人は出てくると思う。

○まちづくりアドバイザー

実際の地域におけるメリットについては、直接、地域の組長なりに聞くことになるのか。

○会長

実際に聞くことによって、チラシに書いているメリットに追加して、地域独自のメリットがリアルにわかる。

○まちづくりアドバイザー

チラシで学区ごとのメリットがわかれば、手っ取り早いのではないかと。

○会長

18学区のチラシを作って各地域に転入してくる人にそれぞれ配るのが理想ではある。

○事務局

転入者が一番知りたいことは、町内会の年会費がどれくらいかかるかということ、町内会長は何年に一度まわってくるのか、どのようなことをしなければならないのかということであるようだ。

○まちづくりアドバイザー

チラシにメリット・デメリットを全て盛り込むのは親切ではあるが、すべてをまとめるのはなかなか難しい。

○会長

現在町内会費を払っているメリットがないのではないかと意見が出るが、例えば、家族が留守のとき自宅に小火があれば、一番に駆けつけるのが地元の消防団である。そのような普段の生活ではわからない地域での取組についても気づいてほしいところである。

○委員

学区行事について、どの学区も行っているものなのか。例えば、どのような行事があるのか。運動会や地蔵盆などはわかるが1人暮らしの女性が参加したいと思うような行事はあるのか。

○会長

模擬店等を出す夏祭りなどは、参加して楽しめると思う。

○会長

1人暮らしの人だからこそ、ぜひ町内会に入り、地域に関わってほしいと思っている。

○まちづくりアドバイザー

例えば、祭りの中のプログラムに一人暮らしの若い女性などが楽しめることが盛り込まれていれば魅力的だと思う。

○会長

若い人なども地域でもっと大切にしていきたいとは考えているが、高齢者に向けての活動に偏りがちになってしまっているため、今後、若い人に向けた活動も増やしていきたいと考

えている。

○まちづくりアドバイザー

その辺の工夫については、各学区で考え、取り組んでいってほしいと思う。

○会長

地域で行事があるときは、その地域の掲示板でチラシやポスターを貼るので、通りがかったときに、情報収集してほしい。

○事務局

共助というのは説明が難しい。例えば、親が他区に住んでいて、その子どもは北区に住んでいる。子どもは町内会に入っていない。親は他区の1人暮らしで近所に助けてもらって暮らしている。その状況が共助ということを理解してもらえない。

○会長

逆に共助のおいしいところだけを利用しようとする人など、様々な人がいるということも気をつけていかなければならない。

■既に居住している未加入者に対して

○委員

町内会長は、選挙で決めたり、1年ごとに交代して行ったりしている。そのような人は実際によく地域のことをわかっていない場合もあり、聞かれたところで答えられない。また、運動会などは小学校単位で行われる。さらには、自治会の役員であったり、多くの役がある中で、その役が自分にいつ回ってくるかわからないなど、地域の中の情報がクリアでないことによる不安を感じている。

そのような人が情報を手に入れられる方法をつくってあげることが必要ではないか。

また、当番制で決まった町内会長などは人にメリットなどを語る事が難しく、実際に長くやられている自治会長さんなどが話すことによって初めて伝わるのではないか。

しかし、学区の本部の人が忙しくそこまで手が回らないということも理解できる。

○委員

本部は何人くらいで構成されているのか。

○会長

自分の学区は16人ほどおり、自分も集まりに参加することがある。そこで言われたことは、自分たち老夫婦は町内会費を払うことは可能だが、役をすることは体力的にも厳しい。一つの世帯にそのようなことを言われ、それを飲むと他の世帯の人も、理由をつけて役を断りだしてしまう。そのような状況を踏まえ、周りから地域の役のルールを作ってほしいと言

われる。高齢者は若い人たちにやってほしいと思うが、一方で若い人は時間に余裕のある高齢者にやってほしいと思っている。そして、本部から結論を出すことは厳しい。

○会長

うちでは、なるべくその世帯の状況を考慮して役を免除するなどしている。入らない人を入れようと思ったら、やはりそれなりの配慮がこちらにも必要になってくるのではないか。

○委員

入らないということは、やはりなにかトラブルなどの要因があると思われる。例えば、ごみ出しなど。

○会長

一度、注意しても、また、ルールに沿ってごみ出しができていないなど、地域間のトラブルの原因になっている。

○会長

市民しんぶん配布なども問題になりやすい。ある町内会長は、なぜ町内会に入っていない家にしんぶんを届けなさいといけないのかと言う。

○まちづくりアドバイザー

市民しんぶんは市政協力委員の仕事であるが、実際、地域の役をやっている人が兼任していることも多く、それぞれの役の線引きができていないため、組長として気持ちと混同してしまい、それが結局、町内会に入っていない人には届けなさいというトラブルを招いてしまっている。

○委員

市民が市政協力委員のことを理解できていない。

市政協力委員は京都の制度であり、対して、自治会長は自分たちの自治の組織であり京都市の組織ではない。それぞれの役を担う人は、その組織に入るときにそれぞれの役について理解してもらわなくてはならないが、それがなかなかできていないのが現状だ。

○会長

明確に分けてしまうと、逆にこちらが頼めることが少なくなってしまうので、あいまいのままの状態のほうが、やりやすいこともある。

○まちづくりアドバイザー

ただ、このトラブルが原因で町内会に未加入になってしまうということも避けたい。

○委員

京都市ではないが、ステーション方式のごみ出しにおいて、ある町内会に入っていない人（会費を払っていない）と入っている人たちとで裁判になって、入っていない人はごみ出しができない判決になった事例もある。

京都市だと、家の前に置いておいても回収はしてくれるが、極力地域でまとめて置いてほしいとしている。しかし、場所によってはほとんどの家が自分の家の前においている地域もある。

○会長

ごみステーションの設置場所について、地域でもめることがある。当然、自分の家の前には置きたくない。京都市はごみステーションでまとめるほうが回収が楽になってよいと思うが。

やはり、住民同時のトラブルのきっかけはごみ問題が多いと思う。そして、トラブルはあるが、結局はだれかがごみステーションの世話をしてくれ、放置されているごみの撤去をしたり、汚れたステーションに水まきなどするなどの清掃を行ってくれている。

○まちづくりアドバイザー

このようにして、地域は成り立っていていることをみんなが知ってくれたらトラブルも減ると思う。

トラブルを解決することが、町内会の加入率向上につながるのではないかな。

○会長

まず、町内会に加入しない理由を聞くことも大切だと思う。しかし、なかなか理由を話してもらうのは難しい。

○まちづくりアドバイザー

先ほども言ったように地域内でのトラブルが原因であると、身近な組長などに話すのはなかなか言いづらい。なるべく、遠くの人（行政だったり）に話すのがよいのではないかな。

このようなときに本部の役員が動くことは期待できるかな。

○会長

自分の学区においては、実際に役員が動いていることもある。

○会長

仲介役に入ってもらい、一度もつれた地域間を再度つなぎ、町内会への加入につながれば、理想である。

○まちづくりアドバイザー

地域の仲介役というのは、大切なキーパーソンであると思う。
先ほどの本部の役員もその一人だ。

○会長

自分は、町会長を続けているが、仲介役を担うこともある。ビジネスライクではなく、互いの気持ちを考え話し合うことで、トラブルの解決を図っている。

○事務局

町内会に加入しないのは、入らなくても困らないからだと思われる。

○会長

しかし、人の目は気になるのではないか。会費の回収をしに行き、払わない家があったら途端に近隣に伝わってしまうので、住みづらい環境になるように思う。

○事務局

けど、それでもなお、住み続けている人がいる。

○会長

それは、なにかトラブルがあるように思われるから、仲介役が出て行って話を聞く必要がある。

○会長

自分の学区は、町内会長で話が収まらないところは、本部に相談してもらえば、自分たちが出ていくと伝えているが、相談を受けることはほとんどなく、町内会で解決しているようである。その要因としては、町会長に限らず古くからその地域にいる人や温厚な人が仲介に入ってくれて、説明をしているようだ。

○会長

かつては、昔ながらの地域の中心になる人がいて、そういう人が自治連の会長や市政の会長になっており、地域の人をつなぐ仲介役となっていた。最近は時代が変わってきて、高齢者が中心になってきた。

○まちづくりアドバイザー

やはり、近年は仲介役をできる人が減ってきているか。

○会長

どこも減る傾向にあると思うが、自分の学区はとくに減っていることを認識している。

○会長

年齢的な問題はあると思う。自分の学区は、小学校の校長先生が役をやっているが、同じこの学区で住み続けてくれる世帯を作っていこうという考えである。拠点を転々としているとわからないことが多くなってしまう。それであつたら、一つ地域に住み慣れてほしいという気持ちがある。一度出ていった子どもがまた帰ってくるなど。

○会長

地域によっては、古くからの土地が多く、新規の家が少なく、建てづらい。反面、新しい家がどんどん建っている地域もある。

○会長

新しい住宅と古くからの地主との関係性は難しいと思う。

○会長

6～7年前までは、自分の学区では、転入してきたばかりの人に地域の役や地域の行政を任せることはできないとしていた。なので、自治連合会の役は全て、もともとの地の人で構成されていた。しかし、現在は7割を入ってきた人で構成していて、変化してきている。

新しい人たちが地域のために活動し、それをもともとの地の人たちが認める。そのような実績から、地の人たちの考えが変わってきて、新しい人にも任せられるようになった。

これからも、自治会加入チラシをどんどん配っていき（区役所でも配っていき）、加入者を増やしていきたい。

○事務局

最近、転入者からよく問合せがあるのは、防災マップについてである。自分たちの避難所はどこか、町内会に入っていないとその場所には避難できないのかという問合せがある。

○会長

それは学区にかかわらず、加入者・未加入者ともに避難所では受け入れ、協力の体制をとると思う。

○まちづくりアドバイザー

意見をまとめると、転入者については、少し遅い発進かもしれないが、行政の働きかけ（町内会加入チラシの配布）に期待したい。各地域の組長や町会長、本部の役員、役はついていないがよく地域を知っている人など、どこもうまく回しているところを見ると、行政とうまく連携し、それらにつなげることができれば、加入者を増やせるのではないか。未加入者については、ごみ出しなどのトラブル解決していくことが加入につなげるためのポイントである。そのためには双方の意見を聞き、つないでいく仲介役が必要である。そのような人材が年々減ってきており、若い人たちにもその役を担ってほしいと考えているがなかなか難しく、

どのようにその仲介役を作っていくかを考えていきたい。

【各テーブルのまとめ】

○部会長

それでは時間になったため、それぞれのテーブルの議論の内容を発表していただきたい。

【Aテーブル】

- ・ 転入者については、組長が町籍簿を作り回るがどこまで徹底されているかは分からない。
- ・ 組長が声かけを1回して終わりだけではなく、更に自治会からイベントの案内の声かけをすると二重の仕組みがあってもよいのではないか。
- ・ 未加入者に対して、きっかけがないということもあるが、組長が継続的に声かけやポスティングするということも大切。その際、頑張った組長に対しては、インセンティブを与えるといった工夫も必要である。

【Bテーブル】

- ・ 転入者に対して、基本的には町内会長が声かけを行うが、プッシュが弱い場合もある。
- ・ 会長よりも隣近所の身近な人が声かけを行うほうが効果的ではないか。
- ・ 転入者は地域のことを知らないので、加入の話以前に、地域の実情（年齢構成や行事等）について丁寧に説明することが大切である。
- ・ PRチラシについて、もっと町内会のメリットを強調する内容にしたほうがよいのではないか。
- ・ 学区におけるキャンペーンを行うことによって、既に居住している方にとっても地域の良さをあらためて知る良いきっかけとなり、加入促進に弾みがつく。
- ・ 様々な事情があり、未加入となるが、町内の運営方法も見直す必要がある。町内ごとの裁量に幅を持たせるなど、柔軟な仕組みづくりが必要。
- ・ 地域の事業者にも地域活動に積極的な若い人もいるため、町内会に入ってもらいたい。

【Cテーブル】

- ・ それぞれの学区において、転入者に対して声かけを行う仕組みが概ね整っている。
- ・ 転入者が、声かけされないということはほぼない。
- ・ 行政から地域につなぐ仕組みは上手く機能すると思われる。
- ・ 行政からと地域から両方の声かけが効果的である。
- ・ 未加入者について、何らかの原因（ごみ出しトラブル等）があると考えられる。その原因を解決することが大切である。
- ・ 地域における世話役・仲介役など、担い手が不足している。

○部会長

それでは、ワークショップにおける議論については、これで終了とする。
本日の議題は以上である。会議全般について、何か意見などはあるか？

<質疑応答なし>

○部会長

それでは、これで本日予定されていた議題はすべて終了した。

また、前回と今回で皆様の議論内容について、事務局とも協議し、部会としての意見をまとめたうえで、第2回のまちづくり会議において報告、議論を重ねたのち、北区民まちづくり会議としての意見とする。

なお、本日集まっている委員の皆様のほか、地域代表者の皆様をはじめ、行政推進会議の皆様、北区まちづくり提案支援事業審査委員の皆様、本当にありがとうございました。皆様のご協力のおかげもあり、大変有意義な議論ができたと考えている。今後、議論だけではなく、実際に行動に移す必要があるが、ここにお集まりの「チーム北区」として、互いに協力、連携し、取り組む事が重要であると認識している。是非、皆様の力で、より良い北区を創っていただきたい。

本当に、ありがとうございました。それでは、事務局にお返しする。

○事務局

関谷先生、ありがとうございました。また、出席者の皆様においても、積極的なご議論、ありがとうございました。本日いただいた意見や議論をもとに、北区民まちづくり会議に諮った後、そこで決定した方針に従い、取組を進めていく。また、本日の議論内容をもとに、地域の皆様にも、このような取組のご理解、ご協力をお願いします。

最後に、今後の会議日程について事務局から案内がある。

まず、部会ではない、まちづくり会議の本会議について、2月9日に開催するので、委員の皆様においては出席をお願いします。

また、この場のほとんどの方が委員になっている、北区未来につながる区民会議を3月14日に開催する。時間は午前10時から、場所はルビノ堀川です。こちらのほうも、出席をお願いします。なお、いずれの会議においても、別途、案内状を送付する。

それでは、本日はこれで終了とする。長時間に渡り、最後までありがとうございました。